

2018/03/11 先週のメッセージより
「信仰によって生きる」

「信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」

(ヘブル 11:1)

信仰とは、神を信頼するという事です。しかし、キリスト教以外の宗教も信仰という言葉を使いますし、宗教とは関係なく、人は信じるという事をします。なぜ、人は神を信じたり、目に見えないものを信じるたりすることができるのでしょうか。

そもそも人は、神様がご自分のいのちの息を吹き込んで造られました。「いのちの息」は「魂」とも訳され、つまり、人は神のいのちの一部をいただき、神と共に生きる者として造られたのです。

ところが、悪魔が蛇を使ってエバを欺き、人は神との結びつきを失ってしまいました。その結果、人は神を見ることができなくなり、この世界も神との結びつきを失ってしまったのです。しかし、神との結びつきを失っても、人の本質が変わったわけではありません。人は、神のいのちをいただき、神と共に生きるように造られているため、すべての人が神を求めています。これが信じるという行為を生み出すのです。つまり、いくら神を求めても、神との結びつきのない世界では、神以外のものを信じるしかなく、仕事で安心を得ようとする人は、仕事がうまくいくことを信じようとし、人間関係で安心を得ようとする人は、人を信じようとし、これが、見えないものを求めて安心を得ようとする信仰の土台です。それは言い換えると、神と結びつこうとする運動です。この運動のことを、人は愛とも呼びます。信仰と愛はコインの裏と表の関係にあるのです。

こうして、聖書が教える神との関係を回復し、神を信じるようになった人がクリスチャンです。この世界は神を知りませんでした。神様ご自身が自らを啓示して下さったことにより、私たちは神を知るチャンスをいただきました。聖書は、このことを、信仰を賜るとか、永遠のいのちを持つなどと表現します。

私たちはこのようにして、キリストに向く信仰を持つことができたのですから、迷うことなくイエス・キリストに近づき、ますます神様への信頼を育てていきましょう。

「信仰によって、私たちは、この世界が神のことばで造られたことを悟り、したがって、見えるものが目に見えるものからできたのではないことを悟るのです。」(ヘブル 11:3)

神を信頼するには、まず、この世界は神様が造られたと知ることから始めます。

この世の大勢は、生物は自然にできて進化したという進化論を信じています。しかし、聖書は、世界のすべては神様が造ったものだを教えています。信仰と科学は、そもそもの視点が異なりますから、互いに相容れるものではありません。神が世界を造ったことは、知恵で知るものではなく、信仰でしか悟れないものです。私たちは、信仰によって、自分を含めた

すべてが神に造られたというスタートに立つのです。

進化論は、人が科学を追求する過程で生まれた仮説のひとつであり、その後の様々な発見によってすでに行き詰まり、新しい仮説が生まれ続けています。結局、科学の世界で神を明らかにすることはできないのです。

「信仰によって、アベルはカインよりもすぐれたいけにえを神にささげ、そのいけにえによって彼が義人であることの証明を得ました。神が、彼のささげ物を良いささげ物だとあかししてくださったからです。彼は死にましたが、その信仰によって、今もなお語っています。」（ヘブル 11:4）

神様が最も喜ぶ捧げ物は、神を信頼する心です。神様は、何を捧げたかではなく、神を信頼したかどうかに興味があるのです。そのために、神様はアベルを良しとされたのです。

私たちは、神様のために何かをしたいと願い、何をしたらよいかと考えてしまいますが、イエス・キリストは、神が遣わした者を信じるのが神のわざであり、行いではないと語っておられます。行いのない信仰は虚しい、と聖書が教えるのは、神様を信頼しない信仰は虚しいということです。神様が喜ぶ行いとは、良い行いをするのではなく、神様を信頼することです。神様を信頼するとは、神はすべてに報いてくださると信じることです。

「信仰によって、エノクは死を見ることのないように移されました。神に移されて、見えなくなりました。移される前に、彼は神に喜ばれていることが、あかしされていました。」
(ヘブル 11:5)

エノクとは、アベルの死後に生まれたアダムとエバの三番目の子、セツの子孫です。

アベルを殺したカインの子孫は、その後、農業、工業、芸術など、あらゆる分野で成功をおさめ、活躍したことが聖書に記されており、この世的に見れば立派な家系であることがわかります。一方、セツの家系は、何をしたかについては一切触れられず、ただ誰が何歳まで生きたか、ということしか書かれていません。その中で、エノクだけが神とともに生きたと記されているのです。その後、その家系にはノアが生まれ、人類はノアによってリセットされることとなります。

アベルを殺し、神を無視した家系では、自分が何をしたかを誇り、それによって安心を得るしかありません。ですから、自分たちがしてきたことを子孫に伝えています。一方、セツの家系は神と共に生きたことを感謝する家系であり、何歳まで生きたかしか記されていないのです。

その中で、エノクは信仰によって神と共に生き、死ぬことなく命にうつされました。神様を信頼するとは、私たちが死から命に移してくださることを知ることです。そこには、ただ感謝しか生まれません。

「信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。信仰によって、ノアは、まだ見ていない事らについて神から警告を受けたとき、恐れかしこんで、その家族の救いのために箱舟を造り、その箱舟によって、世の罪を定め、信仰による義を相続する者となりました。」（ヘブル 11:6-7）

信仰とは、神様がおられてこの世界を造られたこと、そして、神様は自分に良くしてください、死からいのちに移してくださったことを知ることです。

その後、エノクの子孫として生まれたノアは、神様から警告に素直に従い、箱舟を造りました。箱舟には多くの動物たちとノアの家族が乗り込み、大洪水から救われました。

今日、人々を救い出す箱舟とは、イエス・キリストを指します。ですから、今日、信仰によって生きるとは、家族の救いのためにキリストを述べ伝えることです。イエス・キリストを信じて船に乗る者は救われ、死から命に移されます。もしあなたが永遠のいのちを信頼するなら、家族が減びることを喜ぶはずがありません。家族の救いのために祈り、伝道するものです。

ノアは信仰によって罪を認め、神の義を受け入れました。神を信頼するということは、自分の罪を認め、罪を赦すと言う神の義を受け取ることです。人は皆罪を背負って生きています。もし自分に罪はないと言うなら、あなたは神を偽り者とし、あなたの中に神の言葉はないと聖書は教えています。もし私たちが罪人でなければ、神を信頼する必要もないし、神を信頼する必要もありません。イエス・キリストは、私たちの罪を取り除き、洗い流すためにこの世に来られたと言っておられます。神を信頼するということは、自らの罪を認めるということでもあるのです。罪を認めて、罪の赦しを受け取ることです。そのことを通して私たちは神を愛するようになるのです。

「信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかを知らないで、出て行きました。」（ヘブル 11:8）

「信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束とともに相続するイサクやヤコブとともに天幕生活をしました。彼は、堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都を設計し建設されたのは神です。」（ヘブル 11:9-10）

神を信頼するとは、たとえ保証がなくても神の言葉に一步を踏み出す勇気を持つことであり、何があっても神の約束に留まることです。神様がアブラハムに与えた永遠の契約は、安息の地を与えるという約束です。アブラハムは、神様に導かれて、安息の地と言われたカナンにやってきましたが、そこは現実には安息とは程遠く、外国人が住んでいて、いつも危険にさらされるようなところでした。しかし、アブラハムは、自分の子どもたちと一緒にそこに住み続けました。それは、そこに神様が都を建設すると約束されたからです。

今日、神様は、私たちの心の中に安息の都を建てあげると言われます。それは、どんな時

でも神様を信頼できる信仰です。現実に見えるものがなくても、神様を信頼して、信仰でそれを見て喜ぶようになるという安息を、神様が私たちの心の中に建てあげてくださるのです。

問題は必ず解決すると神様が約束してくださっていますから、あきらめないで一步を踏み出し、踏み出したからには、神様を信じて神様の約束に留まり続けましょう。

「信仰によって、サラも、すでにその年を過ぎた身であるのに、子を宿す力を与えられました。彼女は約束してくださった方を真実な方と考えたからです。そこで、ひとりの、しかも死んだも同様のアブラハムから、天の星のように、また海べの数えきれない砂のように数多い子孫が生まれたのです。」（ヘブル 11:11-12）

サラは90才という年齢で、イサクを産みました。それはサラが、神様は必ず約束を守る良い方だと、信じたからです。神を信頼するとは、神は真実な方だと信じ続けることです。

「これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり寄留者であることを告白していたのです。」（ヘブル 11:13）

彼らは、地上における天国を見ることはなくとも、神様が安息を約束してくださったことを喜んでいました。これが、神を信頼するということです。

人は、自分の環境を見て、約束が違う、何も問題が解決されていないと言うかもしれませんが、しかし、神様はあなたの中に本当の安息を築こうしておられます。それは、何があっても神様を信頼しようとすることです。

「しかし、事実、彼らは、さらにすぐれた故郷、すなわち天の故郷にあこがれていたのです。それゆえ、神は彼らの神と呼ばれることを恥となさいませんでした。事実、神は彼らのために都を用意しておられました。」（ヘブル 11:16）

神を信頼する人は、天国に心を寄せます。そこがふるさとだからです。聖書は、私たちの国籍は天にあると教えます。アメリカの伝道者ビリーグラハムは、「死とは住所が変わるだけ」と言いました。あなたは肉体の死を迎える時、どこに行くと心を寄せていますか。

「信仰によって、アブラハムは、試みられたときイサクをささげました。彼は約束を与えられていましたが、自分のただひとりの子をささげたのです。神はアブラハムに対して、「イサクから出る者があなたの子孫と呼ばれる。」と言われたのですが、彼は、神には人を死者の中からよみがえらせることもできる、と考えました。それで彼は、死者の中からイサクを取り戻したのです。これは型です。」（ヘブル 11:17-19）

アブラハムの信仰の最後の仕上げが、イサクを捧げることでした。イサクは、アブラハム

にとって、この地上での安らぎであり、支えでした。そのイサクを捧げるように、神様は命じたのです。

あなたのイサクは何でしょうか。この地上であなたが安らぎを感じ、支えとしているもの、たとえば、名誉、金、人とのつながり、家族などを捧げるように神様は言われます。その心配をやめて、神様にゆだねることが信仰には必要だからです。

アブラハムがイサクを捧げることができたのは、神は死んだ者を生き返らせることができると知っていたからです。イサクは必ずよみがえるから心配することはないと信じて、アブラハムはイサクを捧げたのです。アブラハムが神をここまで信頼したからこそ、イサクは死なずに済んだのです。

神様が求めている信頼とは、この地上でもっとも大切な富をゆだねることです。それは、すべてを神にゆだねて神を信頼することこそが、あなたに平安をもたらすものだからです。この信仰を育てるには、どうすればよいのでしょうか。

■信仰を育てるために

1. 御言葉を聞く

「そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。」(ローマ 10:17)

御言葉を聞こうとする姿勢のない人は信仰が育ちません。まずは、御言葉を聞くことが信仰の第一歩です。

2. 御言葉を語る

「私は信じた。それゆえに語った。」と書いてあるとおり、それと同じ信仰の霊を持っている私たちも、信じているゆえに語るのです。」(Ⅱコリント 4:13)

信仰は語ることで成長します。聖書の言葉を信じるというなら、自分の信じていることを告白しなければ、信仰は育ちません。神の言葉を語らないのであれば、信仰は前に進みません。成長しない人は、否定的な言葉を語ります。私たちをコントロールするのは言葉です。何を信じているのかを語り、言葉をコントロールしましょう。

3. 多くの罪が赦される

「だから、わたしは言うのです。『この女の多くの罪は赦されています。というのは、彼女はよけい愛したからです。しかし少ししか赦されない者は、少ししか愛しません。』」
(ルカ 7:47)

信仰の成長に欠かせないことは、何かができるようになることを目指すことではなく、多くの罪が赦される経験をするということです。罪が赦されるという愛を受け取ることが、自分を成長させます。信仰とは愛です。愛を食べるから成長するのであり、自らの力では成長できません。

赦された者には、神への感謝が生まれ、多く赦された者は、多く愛するようになります。これが信仰の成長です。信仰の成長とは、罪深い自分に気づき、神なしでは生きられない弱さに気づくということです。そうすれば、その弱さに神の恵みが働くようになり、絶対的に神様を信頼するようになっていくのです。

信仰の成長とは、行いができるようになることではなく、弱さの内に神の恵みが働くことです。自分を見つめ、自分の弱さ・罪深さを知れば知るほど、あなたがどのようなものであっても私はあなたを愛するという神の愛の偉大さを知り、神の助けなしではどうにもならない自分に気づき、成長するのです。私はあなたの罪を赦し、あなたを愛しているという愛を受け取る時、神を愛し信頼する心が成長するのです。

信仰成長の背景には必ず祈りがあります。神の恵みを受け取るころには、すべて祈りが伴います。御言葉を食べて、祈り、罪を告白して、祈り、日々、神を信頼することを目指すことが、信仰によって生きるということです。